

第15回 中国高等学校新人テニス大会

広島市立舟入高等学校テニス部



男子シングルス 1 回戦。安定したサーブで制す。

個人戦シングルの2名が広島県大会から勝ち上がり11月20日(土)・21日(日)に広島県福山市竹ヶ端運動公園庭球場で行われた中国高等学校新人テニス大会に出場してきました。

2年生選手の初戦の相手は堺港総(鳥取県)の選手。お互いにシングルのみの出場なのでダブルスの試合から始まった初日、試合進行によってシングルの試合が入ってくるのでオーダーを確認して試合の待機に入る。朝の練習コートから少し時間が経った頃にオーダーが貼り出された。

1

クレー

舟入高校のテニスコートのサーフェスは学校では多い土、クレー。

2

ハード

地区予選の広域公園テニスコートは中国地方に稀なハードコート。

3

オムニ

県大会のびんごや三原運動公園のテニスコートは人工芝、オムニ。

春の県総体



部活動の総まとめ

秋の新人戦



シングルスとダブルスの個人戦と団体戦
8月地区予選(広域)
9月県大会(尾道)
10月団体戦(三原)
県大会上位を目指す

県大会の上位者が中国大会の切符を獲得



サーブスキープに苦しむ展開。



1年生選手の1回戦の対戦相手は、島根県シングルス最上位でダブルスも出場していた松江北（島根県）の選手。試合の入り方が勝敗を決めると言っても過言ではない1回戦。ダブルスの試合で身体を暖めた相手選手に対して落ち着いて自分のペースで試合に入ることができた。応援席からシード選手を撃破かと期待が高まる相手選手からの緊張感を感じるほどの好スタートだった。しかし試合は思わぬ展開に。相手選手のミスを誘う好プレーに対して、前後の揺さぶりで対抗してくる。それに対して人工芝のサーフェスのグリップが弱い。あと一步のところまでボールを持ち上げることができない。試合序盤でサーブゲームをキープできなかったことが悔やまれる試合となった。次回の対戦では必ず

リベンジを果たしたいと話す姿に今後が頼もしく逞しさを感じることができた。

相手ペースに乱される。



初日はダブルスの試合を準決勝まで行い、シングルス2回戦は2日目になった。2年生の次なる対戦相手は岡山県のシングルス最上位。大会2日目の最初の試合のダブルス決勝を制して優勝したばかりの倉敷青陵のダブルスペアのひとり。試合後の感想で相手のペースに圧されて自分のプレーが全くできなかつたと話す通り、打ち返す球がネットを越えなかつたりサイドアウトする場面が多かった。中国大会ならでは体験が次の試合に繋がっていくことを期待したい。



第15回中国高等学校新人テニス大会

令和3年11月20日(土)・21日(日)に広島県福山市竹ヶ端運動公園庭球場で行われました。昨年度はコロナ禍にあって開催できなかった大会です。中国5県のシングルス・ダブルスの個人戦上位者が集まり、さらに上位を競います。広島地区予選は8月末の広域公園テニスコートから始まり、9月末のびんご運動公園の広島県大会を経て、この中国大会に至ります。今年は広島県での開催となり、舟入高校からはシングルス2名の選手の出場を果たすことができました。11月の大会でしたが期間中は天候に恵まれ、風もなく穏やかなテニス日和の大会になりました。練習コートでアップした直後のツーショット写真です。

